

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

ドイツ語ドイツ文学専攻は、ドイツ語学及びドイツ文学・文化学の研究分野に関する高度な専門知識と先端的な理論・方法を修得し、独自の視点に基づく研究活動を自律的に遂行し、現代の文化・社会について専門知に基づいて分析・考察する能力を有し社会に貢献できる人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（ドイツ語ドイツ文学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. ドイツ語で書かれた研究文献を深く正確に理解することができる。
2. 自らの研究成果をドイツ語で発表できる能力（ヨーロッパ言語共通参照枠C1に相当）を身につけている。

（思考・判断・表現）

3. 専門的研究を通じて、文化、社会、人間について深い洞察をもって批判的に分析する能力を有する研究者・教育者として社会に貢献することができる。

（関心・意欲・態度）

4. ドイツ語学・ドイツ文学・ドイツ文化学の研究分野に関して広く深い専門知識と独創的な方法論を修得し、独自の研究テーマに取り組む意欲がある。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 既存の研究を批判的に検証し、独自の研究の視座を拓く能力を習得させるために、「ドイツ語学演習」「ドイツ文学演習」「ドイツ演劇演習」を配置する。（知識・技能）
2. 研究分野に関する先端的知識を深め、自身の見解を専門知に基づいてドイツ語で表現する能力を習得させるために、「特殊研究」を配置する。（思考・判断・表現）
3. 学生が博士論文の作成について必要な知識や技能を習得できるように、「博士論文指導」

を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)

4. 高度な専門知識の習得のために、国外の研究機関の設置する課程の履修による単位の修得を認める。(関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 演習科目・特殊研究科目では、既存の研究の批判的検証能力と高度な専門的知識を習得させることを目的として、少人数授業を行う。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. TAとして学部教育に関与させ、教育経験を積ませる。
4. 論文指導では、指導教授がきめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
5. 研究成果を諸学会で口頭及び論文で発表する機会を利用させ、博士論文執筆を着実に進める指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 演習科目・特殊研究科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、博士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

ドイツ語ドイツ文学専攻 (博士後期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 自らの専門領域について高度な知識を有し、ドイツ語資料を正確かつ批判的に理解・分析でき、学術的内容を正確に論じることができる。
2. 自身の研究対象と研究方法についてドイツ語で説明できるドイツ語力 (ヨーロッパ言語共通参照枠B2に相当) を習得している。

(思考・判断・表現)

3. 博士論文につながる独創性のある研究計画を確実な専門知識に基づいて具体的に説明することができる。

(関心・意欲・態度)

4. 自身の研究対象と研究方法について、先端的研究の成果を積極的に取り入れる能力の習得に強い意欲を持っている。

以 上